

月例報告	
学部	法
学科	国際政治
国名	アメリカ
留学先	ウェストフィールド州立大学
報告月	2018年8月
内容	<p>1.学習状況の報告</p> <p><科目名:Principles for Environmental Science> (今日9/5は授業初日のため、この授業が現時点で私が受けた唯一の授業です。) この授業は私がウェストフィールドで一番学びたかった環境学の授業です。私は法政で国際開発・平和構築を専攻しています。ここでは環境学を広く浅く扱うため、最初に受ける環境学の授業としてメンターからおすすめしてもらいました。今学期から担当教授が変わったそうですが、彼は非常にフレンドリーで優しいおじいちゃん先生といった感じで、あまり緊張することなく授業に出席できました。 授業は教科書ベースに進みますが、ウェストフィールドは大自然に囲まれているため、この地域の話も織り交ぜられていました。今日は基本的にオリエンテーションだったため、その他具体的なことはまだよくわかりません。</p> <p><科目名:Global Film Studies> この授業は世界中の映画を通して世界を理解するという授業で、この四つの中で唯一Upper Level(上級)です。基本的に欧米以外の映画が扱われます。 この授業は私の専攻と特に関係ないですが、一つ自分の趣味や好きなことに関連した授業を受講したいと思い選択しました。本当はIntroduction to Photographyを取りたかったのですが、Principles for Environmental Scienceとタイムクラッシュしていたため、次の学期にチャレンジしてみたいと思います。</p> <p><科目名:Introduction Women's and Gender Studies> この授業は女性の権利やジェンダーの平等を基礎的に勉強する授業です。</p> <p><科目名:Introduction to Comparative Ethnic Studies> この授業も同様に、アメリカの人種や宗教、文化を基礎的に学ぶ授業です。</p> <p><語学について> まだ本格的に授業が始まっていないため、アカデミックな英語にはきちんと触れていませんが、唯一受講したPrinciples for Environmental Scienceでは化学の専門用語がたくさん出てきたため途中何を話しているのか全くわからなくなりました。予習する際には、次の授業で扱う範囲の専門用語を英語でしっかり覚えていないといけないと感じました。 日常生活の面では意外にも困難は感じていません。おそらくそれは、メンターたちが気を遣って易しい言い回しを選んでくれたり、ネイティブレベルではない留学生たちと生活しているからかもしれません。しかし、やはり他の留学生は私よりもずっと上手に話せているため、彼らから学ぶ英語もたくさんあります。例えば、使っていた単語やフレーズをiPhoneにメモし、帰ってからそれを覚えるようにしています。日本人が3人しかいない大学という地の利を生かしてどんどんスキルをつけていきたいと思います。</p> <p>2.生活状況の報告</p> <p>学校に到着した時、予想よりもはるかに田舎にあり、森に囲まれているため最初は正直愕然としました。しかし不思議なことに、数日もたつと慣れてくるもので、今では大学とオンキャンパスの寮を非常に気に入っています。 食事の面で言うと、食堂は非常に広く快適で、ヘルシーなメニューがたくさんあります。(間違いなく法政の学生食堂よりも健康的なメニューが豊富です。)何回行っても良い無制限のミールプランなので、忙しい授業の合間に料理をする必要はありません。寮は最近リノベーションされたDavis Hallというところで、基本的にみな2人部屋です。私は2人部屋ですが、幸運なことに(?)ルームメイトがいません。シャワールームとトイレは三つずつあるものを、約6~8人で使用しています。買い物は車で15分ほどかかるウォールマートでしないといけないのですが、メンターに頼めば車を出してくれたり、学生証を見せると無料で乗れるバスもあるためそれほど不便ではありません。 一つ困ったのは寮費とミールプラン合わせて5500ドルほどかかったことです。当初はおそらくこれよりも1000ドルほど安かったのではないかと思います。カードの使用上限額を上げる等対応が必要でした。</p> <p>3.その他(今、感じていること~心境の変化やご自分の成長等)</p> <p>到着初日は寮での生活や友達ができるか等、全てに不安を抱いていましたが、留学生もメンターも職員の方も、ここにいる人たちは皆優しすぎるくらいで、とても心地よく生活することができています。授業が始まるまでの5日間くらいは、大学主催の沢山のイベントが毎日あり、とても盛り上がっていたため驚きました。5000人規模の小さな大学だからかもしれませんが、学生・教授・職員さんが皆家族のような雰囲気、イベントに参加したり一緒にご飯を食べています。日本の大学では考えられないことばかりで、すごく刺激的です。 授業は正直かなり不安ですが、完璧についていけたらそもそもここに来る必要はないと考えて、前向きに取り組んでいきたいと思っています。</p>